

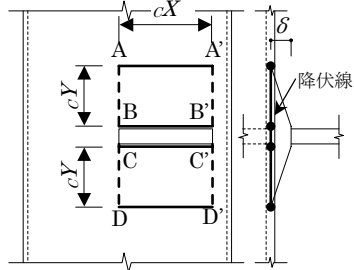
角形CFR柱梁接合部設計指針／質問と回答及び正誤表

2006.9／接合部研究WG

1. 質問と回答

	質問	回答（⇒処置）
指針／1章	・冷間成形鋼管柱で通しダイアフラムとした場合の指針の適用範囲を教えてください。	・通しダイアの場合には、曲げ加工開始点の制約は受けず、柱ウェブ面まで寄せることができます（協会で実施した実験も、全て柱面まで寄せています）。
指針／4章 指針／設計例 算定プログラム	・柱左右の梁せいが異なる場合、柱梁接合パネルの設計を行う際の注意点を教えてください。	<p>・パネルの設計式【(4.1)式、(4.2)式、(4.5)式、(4.7)式、(4.8)式】はいずれも、下式を満たすことを確認するものとなっています。 (左辺)パネル耐力 \geq (右辺)入力</p> <p>・従って、柱左右の梁せいが異なる場合、左辺はより小さく、右辺はより大きくなるようにs_d、h_0、αを定めることで、安全側の評価を得ることができます。</p> <p style="text-align: center;">⇒算定プログラムの「説明」シート中のD28セルに、詳細を記載いたしました。</p>
指針／4章 指針／5章	・梁フランジ重心間距離 S_d のとり方を教えてください(ダイアフラム中心間距離なのか、梁フランジ間距離なのか)。	・設計的に板厚心をずらす場合(目違いetc.への対応)には、 s_d が小さくなる方で検討します(s_d を小さく見積もった方が、パネルもダイアフラムもともに安全側の評価となるので)

2. 正誤表

	誤り	正（⇒処置）
指針／5章	・指針のP5-1の図5.2(a)において、鋼管壁面の降伏線幅 cX の“X”が欠落している。	
算定プログラム	・ダイアフラム検討シートで、鋼管の幅厚比制限のウォーニングが正しくない(「ダイアフラム検討」シート中のK8～K12)。	⇒ウォーニングが正しく表示されるように算定プログラムを修正